

ちに機をも不知、爾前の教を云うとめ、法華經を行ぜよと申は、としごろの念佛なんどをば打捨、又法華經には未入功、有にも無にもつかぬやうにてあらんずらん。又機も不知、法華經を説せ給はば、信ずる者は左右に及ばず。若謗ずる者あらば定て地獄に墮候はんずらん。其上、佛も四十餘年の間、法華經を説給はざる事は若但讚佛乘衆生没在苦の故なりと。在世の機すら猶然なり。何況や末代の凡夫をや。されば譬諭品には佛告舍利弗言、無智人中莫説此經云云。此等の道理を申すは如何が候べき。答云、智者の御物語と仰承り候へば、所詮末代の凡夫には機をかがみて説け。左右なく説て人に謗ぜさする事なかれとこそ候なれ。彼人さやうに申され候はば御返事候べきやうは、抑若但讚佛乘乃至無智人中等の文を出し給はば、又一經の内に凡有所見、我深敬汝等等と説て、不輕菩薩の杖木瓦石をもつてうちはられさせ給しをば顧みさせ給はざりしは如何と申させ給へ。問云、一經の内に相違の候なる事こそ、よに得心がたく侍れば、くはしく承り候はん。答云、方便品等には機をかがみて此經を説べしと見え、不輕品には謗ずとも唯強て可説之見え侍り。一經の前後水火の如し。然るを天台大師會云、本已有善釋迦以小而將護之本未、有善不輕以大而強毒之文

①て十(カ) ②ずらん=歎 ③〔法花經を〕一 ④事=ヲ ⑤は十(法花經ニハ) ⑥〔云々〕一 ⑦此等の道理を=トコソイマシメ給シカト ⑧仰承り=仰ラレテ申給ヲ承テ ⑨なれ=へ ⑩さ=カ ⑪候べきやうは=有ルヘシ ⑫出し給はば=出サセ給候ハハ ⑬給...如何と//9字=給候ケル歎ト ⑭〔之〕一

文の心は本と善根ありて今生の内に得解すべき者の爲には直に法華經を説べし。然
 に其中に猶聞て謗すべき機あらば、暫く權經をもてこしらへて後に法華經を説べし。
 本と大の善根もなく、今も法華經を信ずべからず、なにとなくとも惡道に墮ぬべき故
 に、但押て説法華經令謗之逆縁ともなせと會する文也。如此釋者、末代には無善
 者は多く、有善者は少し。故に墮惡道事無疑。同くは法華經を強て説聞せて毒鼓の
 縁と可成歟。然れば説法華經可結謗縁時節なる事無諍者をや。又法華經の方便
 品に五千の上慢あり。略開三顯一を聞て廣開三顯一の時、佛の御力をもて座をたゝ
 しめ給ふ。後に涅槃經竝に四依の邊にして今生に悟を得せしめ給と、諸法無行經に
 喜根菩薩、勝意比丘に向て大乘の法門を強て説きさかせて謗せさせしと、此二の相違
 をば天台大師會して云、如來以悲故發遣喜根以慈故強説文。文の心は、佛は悲の故
 に、後のたのしみをは閣て、當時法華經を謗して地獄にをちて苦にあうべきを悲み給
 て、座をたゝしめ給き。譬ば母の子に病あると知れども、當時の苦を悲て左右なく
 灸を加へざるが如し。喜根菩薩は慈の故に、當時の苦をばかへりみず、後の樂を思
 て、強て令説聞之。譬ば父は慈の故に子に病あるを見て、當時の苦をかへりみず、後

①〔根〕一節 ②〔直に〕一節 ③し然...猶〳〵7字＝ケレトモ節 ④機あらば＝ニハ節 ⑤信かべか
 らず＝信セス節 ⑥但...なせと〳〵17字＝同シク信セム事ハカタシト思テ謗ノ縁ノ爲メニシキテ
 法花經ヲ説ケト節 ⑦し故に＝ク節 ⑧〔は法...をや又〕41字一節 ⑨を聞て＝ニシテ聞ケリ節
 ⑩〔ば〕一節 ⑪文＝云ヘリ節 ⑫〔給〕一節 ⑬と知れども＝ヲミテ節 ⑭〔左右なく〕一節 ⑮
 〔之〕一節